YAMAHA
ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。
取扱説明書
VMAX
VMAX
2S3-28199-J3

はじめに

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737A

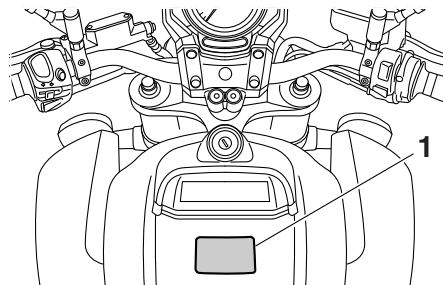
あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

1. 安全項目ラベル

⚠ 警　告

· 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
· ヘルメットを正しくかぶりましょう。
· マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
· ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
· 違法改造はやめましょう。
· 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

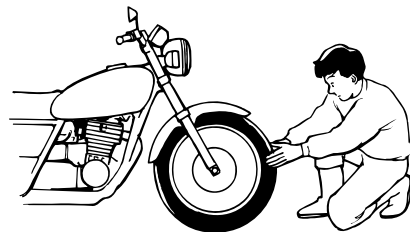
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

JWA11601

警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

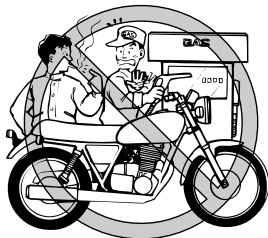
日常点検、定期点検整備を必ず行う

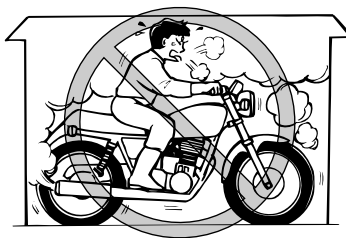
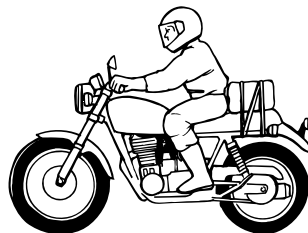
事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。

車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

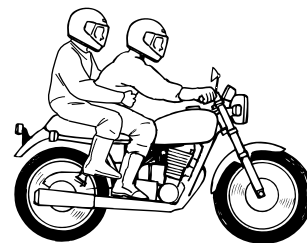
- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。

荷物はしっかり固定する

- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

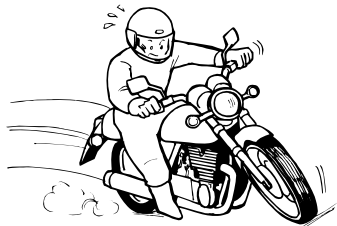
両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

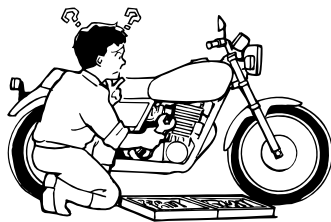
急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

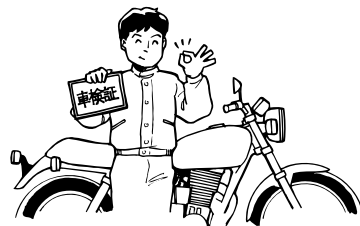
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

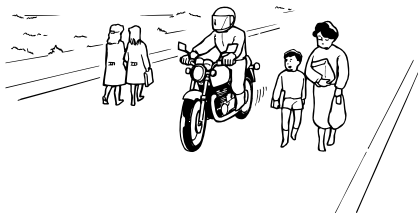
継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm³ 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

JAU27504

歩行者と他の車のために

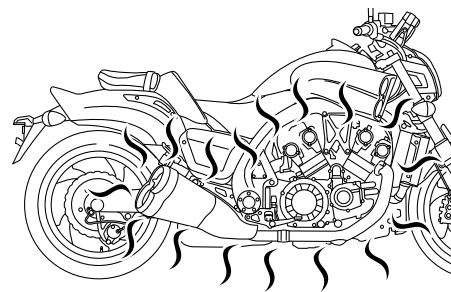
他の人への思いやり

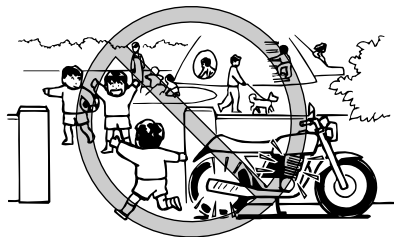
- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

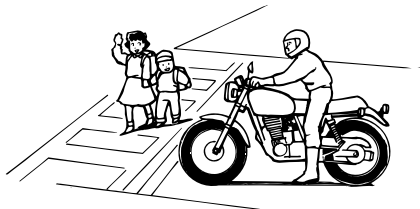
⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**

昼間はヘッドライトを下向きに

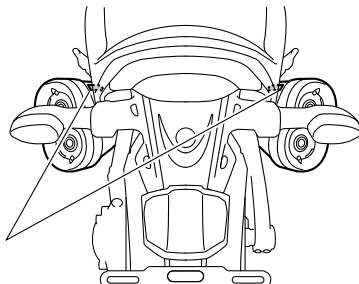
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27581

環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

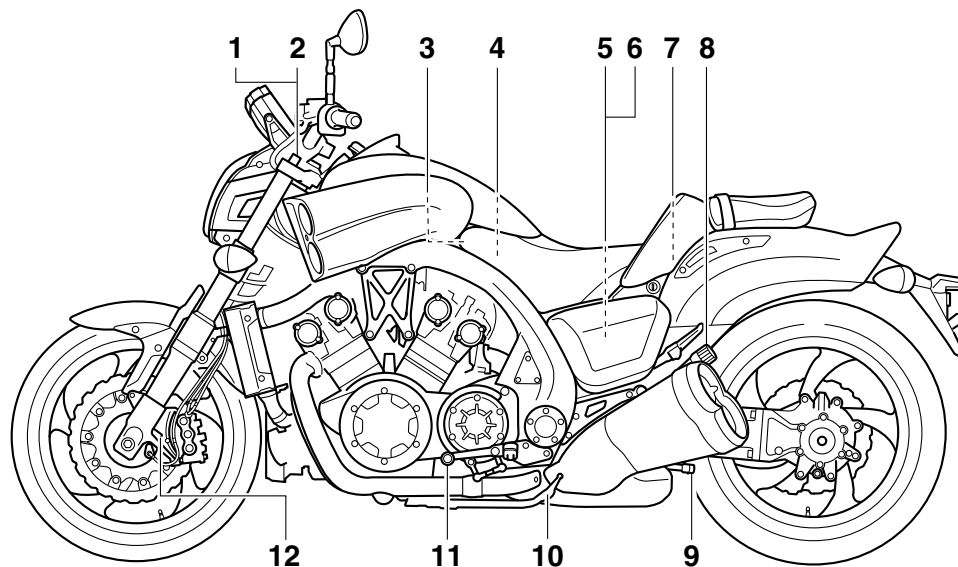
自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。

1. “YAMAHA” マーク

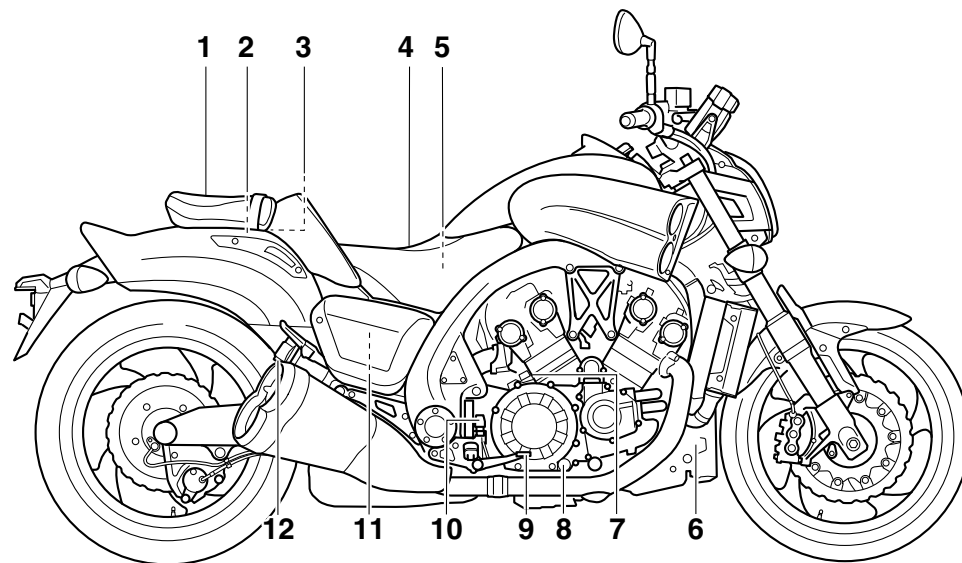
環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

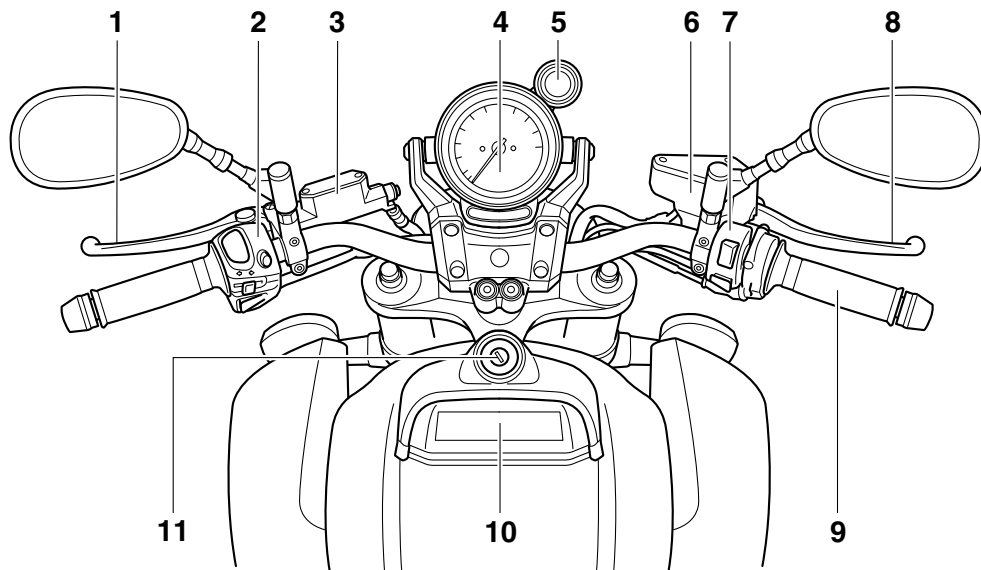
左側面

1. フロントフォークスプリングプリロードアジャスター（P3-21）
2. フロントフォーク伸側減衰力アジャスター（P3-21）
3. メインヒューズ（P6-16）
4. バッテリー（P6-14）
5. サービスツール（P6-2）
6. 書類入れ（P3-21）
7. フューエルタンクキャップ（P3-16）
8. リヤクッションスプリングプリロードアジャスター（P3-23）
9. リヤクッション伸側減衰力アジャスター（P3-23）
10. サイドスタンド（P3-25）
11. シフトペダル（P5-2）
12. フロントフォーク圧側減衰力アジャスター（P3-21）

各部の名称

JAU10421

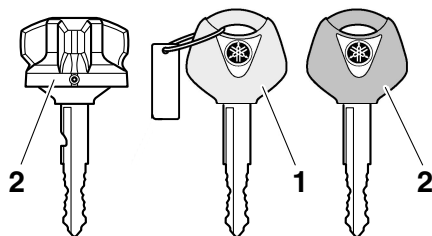
右側面

1. タンデムシート（P3-18）
2. リヤブレーキリザーバータンク（P6-11/P6-12）
3. ヘルメットホルダー（P3-20）
4. ライダーシート（P3-18）
5. 系統別ヒューズボックス 1（P6-16）
6. リカバリータンク (P 6-6)
7. オイル注入口（P6-4）
8. エンジンオイル点検窓（P6-4）
9. ブレーキペダル（P 6-10）
10. リヤブレーキランプスイッチ (P 6-10)
11. 系統別ヒューズボックス 2（P6-16）
12. リヤクッション圧側減衰力アジャスター（P3-23）

JAU10431

運転装置と計器類

1. クラッチレバー（P6-9）
2. ハンドルスイッチ（左）（P3-14）
3. クラッチマスターシリンダー
4. スピードメーターユニット（P3-5）
5. シフトタイミングインジケーター（P3-5/P3-6）
6. フロントブレーキマスターシリンダー（P6-11/P6-12）
7. ハンドルスイッチ（右）（P3-14）
8. ブレーキレバー（P6-10）
9. スロットルグリップ
10. マルチファンクションディスプレイ（P3-6）
11. メインスイッチ / ハンドルロック（P3-2）

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが 1 本とマスコット部が黒いサブキーが 2 本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。

1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

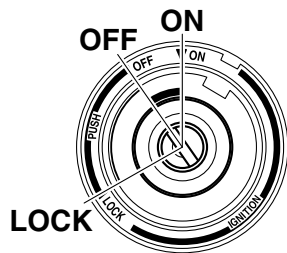
キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- **メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーの ID を登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。**
- **キーを水に浸けないでください。**
- **キーを高温になる場所に置かないでください。**
- **キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **キーに電波を発信するものを近づけないでください。**
- **キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。**
- **キーを分解しないでください。**
- **複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。**
- **金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。**

JAU26894

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 3-5 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ

メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU10551

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

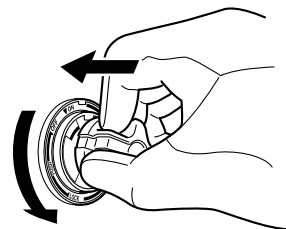
OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU10685

LOCK

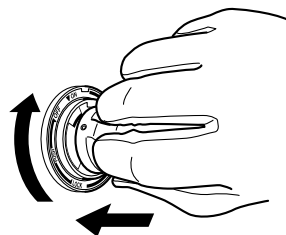
ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。

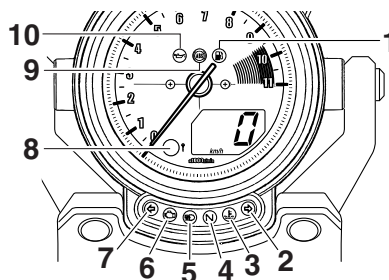
要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し左右に動かしながらキーを回します。

3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた

LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

JAU49394

警告灯と表示灯

1. 燃料残量警告灯 “ ”
2. 方向指示器表示灯（右）“ ”
3. 水温警告灯 “ ”
4. ニュートラルランプ “N”
5. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
6. エンジン警告灯 “ ”
7. 方向指示器表示灯（左）“ ”
8. イモビライザーシステム表示灯
9. ABS 警告灯 “ ”
10. エンジンオイル量警告灯 “ ”

JAU11031

方向指示器表示灯 “ / ”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11061

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11081

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU46566

エンジンオイル量警告灯 “ ”

エンジンオイル量が少なくなると点灯します。

警告灯の電気回路は、以下の手順に従って点検することができます。

1. 平坦なところで車を垂直に立てます。
2. エンジンストップスイッチを にセットします。
3. メインスイッチを ON にします。
4. 警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯することを点検します。

要　点

警告灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

警告灯が点灯したままになるときは、以下の手順で再度点検してください。

1. エンジンストップスイッチを にセットします。
2. メインスイッチを OFF にして 2 分間待ち、その後 ON にします。
3. 警告灯が点灯したまま消灯しないときは、エンジンオイル量を点検してください。（6-4 ページ参照）エンジンオイル量が正常であることを確認した後も、警告灯が点灯したままの場合は、ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

要　点

このようなとき、警告灯は点灯しません。

- エンジンがアイドリング状態のとき

- 走行しているとき
- エンストしたとき、メインスイッチを一旦 OFF にして ON にしなかった場合

ただし、エンジンを始動したときに警告灯が点灯した場合は、メインスイッチを OFF にするまで点灯しつづけます。

自己診断機能
この車は、エンジンオイル量警告灯の電気回路の異常を知らせる自己診断機能を装備しています。異常を検出すると、エンジンオイル量警告灯が 10 回点滅して約 3 秒消灯するパターンを繰り返します。

JCA12751

注 意

自己診断機能が働いたときは、ヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

JAU11367

燃料残量警告灯 “ ”

燃料残量が約 3.9 L 以下になると点灯します。早めに給油してください。

要　点

- メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- このモデルには、燃料残量警告灯回路の自己診断機能がついています。燃料残量警告灯回路が故障した場合、故障が修復されるまで、警告灯が 8 回点滅後 3 秒間消灯するという表示を繰り返します。故障した場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAU11447

水温警告灯 “ ”

エンジン冷却水が規定温度以上になったとき、警告灯が点灯するか、点滅します。このときは、エンジンを止めて冷やしてください。

JCA11851

注 意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

要　点

メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAU46443

エンジン警告灯 “ ”

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。(詳しくは、3-13 ページのマルチファンクションディスプレイにある自己診断機能の説明を参照してください。)

要　点

- メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- スタータースイッチを押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

JAU51662

ABS 警告灯 “ ”

走行中にABS警告灯が点灯または点滅したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。このような場合、直ちにヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。(3-16 ページ参照)
警告灯の電気回路は、以下の手順に従って点検することができます。

1. エンジンストップスイッチを にセットし、メインスイッチを ON にします。
2. 警告灯が点灯し、10 km/h 以上の速度で走行したあと消灯することを点検します。
3. 警告灯が点灯しないか、点灯したまま消灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JWA16041

警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても ABS 警告灯が消灯しない、または走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ブレーキシ

ステムは通常のブレーキの状態になっています。上記のどちらかが起こった場合、または ABS 警告灯が全く点灯しない場合は、急ブレーキなどでホイ－ルがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。ただちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

要　点

スタータースイッチを押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

JAU38915

イモビライザーシステム表示灯

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを OFF にすると､イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約 30 秒経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要　点

表示灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチを ON にすると表示灯が一旦点灯し、すぐに消灯します。点灯しないときや点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

この車は、イモビライザーシステムの異常を知らせる自己診断機能を装備しています。メインスイッチが ON の状態であれば、エンジンが運転中か停止中かにかかわらず、検出した異常内容のコードをイモビライザーシステム表示灯の点灯または点滅で表示します。

JCA12751

注 意

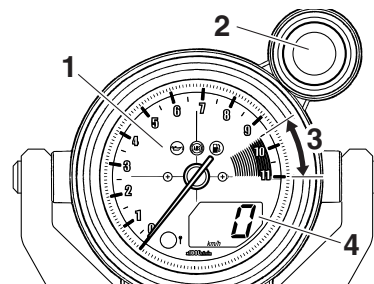
自己診断機能が働いたときは、ヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

イモビライザーシステム表示灯が長く 5 回点滅した後、短く 2 回点滅するパターンの異常コード表示を繰り返したときは､キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3 本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要　点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。（この車のキーも含みます。）ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

JAU46614

スピードメーターユニット

1. タコメーター
2. シフトタイミングインジケーター
3. レッドゾーン
4. スピードメーター

タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0” に戻ります。

JCA11861

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。レッドゾーン：9500 r/min 以上

シフトタイミングインジケーター

このインジケーターの説明と設定については、3-7 ページを参照してください。

JAU4660C

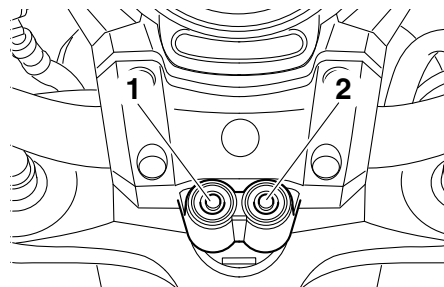
マルチファンクションディスプレイ

1. マルチファンクションディスプレイ

JWA12161

⚠ 警 告

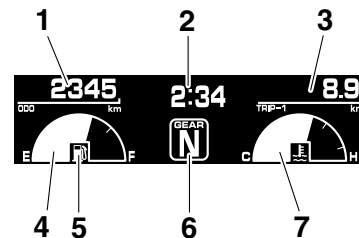
表示の切り替え、時刻調整などの操作は、必ず停車中に行ってください。

“SELECT” ボタンと “RESET” ボタンは、ハンドルホルダーの手前にあります。これらのボタンを使用して、表示内容の切り替えや設定の変更を行います。

1. “SELECT” ボタン
2. “RESET” ボタン

マルチファンクションディスプレイは、メインスイッチを ON にしたとき、常にノーマルモードになります。

ノーマルモード

ノーマルモードでは以下の機能が表示され、トリップメーターとフューエルトリップメーターの表示の切り替えやリセットを行うことができます。

- オドメーター
- 時計
- トリップメーター＜TRIP-1／TRIP-2＞（リセットしてからの走行距離を積算します。）
- フューエルトリップメーター（燃料残量警告灯が点灯してからの走行距離を表示します。）
- 燃料計
- トランスミッションギヤインジケーター
- 水温計
- 自己診断機能

1. オドメーター
2. 時計
3. トリップメーター／フューエルトリップメーター
4. 燃料計
5. 燃料残量警告表示 “⛽”
6. トランスミッションギヤインジケーター
7. 水温計

トリップメーター

メインスイッチを ON にします。“SELECT” ボタンを押すごとに、“TRIP-1” と “TRIP-2” が下記の順で切り替わります。

TRIP-1 → TRIP-2 → TRIP-1

フューエルタンクのガソリンの残量が約 3.9 L になると、燃料残量警告灯が点灯し、トリップメーターの表示は自動的にフューエルトリップメーター “TRIP-F” に切り替わって、その時点からの走行距離を表示します。このとき “SELECT” ボタンを押すと、トリップメーターは下記の順に切り替わります。

TRIP-F → TRIP-1 → TRIP-2 → TRIP-F

フューエルトリップメーター“TRIP-F”が表示された状態でしばらく走行しつづけると、燃料計と燃料残量警告表示 “” が点滅します。

1. フューエルトリップメーター

トリップメーターをリセットするときは、“SELECT” ボタンを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてから “RESET” ボタンを 1 秒以上押します。
フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にトリップメーターの表示になります。また、“RESET”ボタンを押してフューエルトリップメーターをリセットすると、その後、フューエルトリップメーターは表示されなくなります。

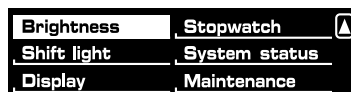
セレクトモード

セレクトモードでは、スピードメーター、タコメーターとマルチファンクションディスプレイの明るさ調整、シフトタイミングインジケーターの調整、マルチファンクションディスプレイの各機能の選択や調整を行うことができます。

要　点

- セレクトモードは、ギヤがニュートラルのときに表示させたり操作をすることができます。
- ギヤを入れると、それまでに設定した全ての機能を保存して、ノーマルモードに切り替わります。
- “RESET”ボタンは表示されている画面により、設定を保存したり、選択（反転表示）している内容を決定したりする機能があります。

“SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押しつづけて、セレクトモードに切り替えます。

Brightness　Stopwatch
Shift light　System status
Display　Maintenance

以下の項目は、このモードで機能の選択や調整ができます。

- 明るさ（ブライトネス）
- シフトタイミングインジケーター
- 時計
- ストップウォッチ
- カウントダウンクロック
- システムステータス
- メンテナンスカウンター

要　点

ノーマルモードに切り替えるには、“SELECT” ボタンを押して “” を反転表示させ、“RESET” ボタンを押します。

明るさ（ブライトネス）の調整

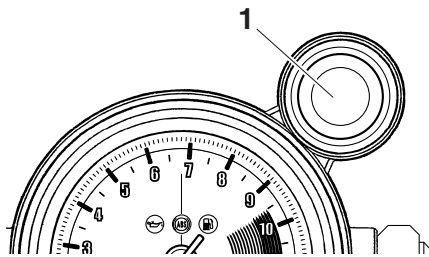
この機能は、タコメーターの文字盤 (“Meter panel”)、タコメーターの指針 (“Needle”)、スピードメーターとマルチファンクションディスプレイ (“Display”) の明るさを調整するものです。

1. “SELECT”ボタンを押して、“Brightness” を反転表示させます。

2. “RESET” ボタンを押して、明るさ調整モードに入ります。次に “SELECT” ボタンを押して、明るさを調整したい機能を反転表示させます。

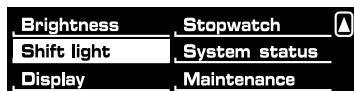
3. “RESET” ボタンを押すと、選択した機能の明るさを示す数のセグメントが点滅します。

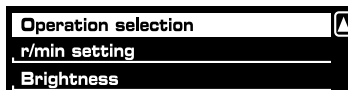
4. “SELECT” ボタンを押して、明るさを調整します。
5. 希望する明るさになったら、“RESET” ボタンを押します。
6. “SELECT” ボタンを押して “▲” を反転表示させ、“RESET” ボタンを押してセレクトモードの初期画面に戻します。

シフトタイミングインジケーターの動作の選択

1. シフトタイミングインジケーター

この機能は、シフトタイミングインジケーターを有効にするか無効にするかの選択をするものです。有効にした場合、点灯または点滅の選択ができます。

1. “SELECT” ボタンを押して、“Shift light” を反転表示させます。

Brightness	Stopwatch	▲
Shift light	System status	
Display	Maintenance	

2. “RESET” ボタンを押します。
3. “SELECT” ボタンを押して、“Operation selection” を反転表示させます。

Operation selection ▲
r/min setting
Brightness

4. “RESET” ボタンを押して、シフトタイミングインジケーター動作選択モードに入ります。
   “SELECT” ボタンを押して “On” を反転表示させ、インジケーターを有効にします。“On” で有効にした場合、インジケーターが点灯し、点灯したままとなります。

“SELECT” ボタンを押して “Flash” を反転表示させ、インジケーターを有効にします。“Flash” で有効にした場合、インジケーターが速く点滅します。

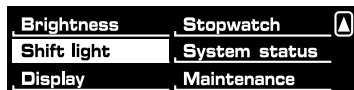
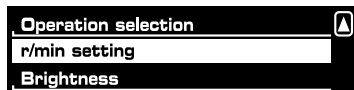
“SELECT” ボタンを押して “Off” を反転表示させ、インジケーターを無効にします。無効にした場合、インジケーターが 2 秒毎に 1 回点滅し、無効であることを示します。

5. “RESET” ボタンを押して、選択した動作を決定します。決定すると、インジケーターが消灯して “▲” が反転表示されます。
6. “RESET” ボタンを押して前のメニューに戻します。
7. “SELECT” ボタンを押して “▲” を反転表示させ、“RESET” ボタンを押してセレクトモードの初期画面に戻します。

シフトタイミングインジケーターを動作させるエンジン回転数の設定

この機能は、インジケーターの点灯（点滅）を開始または終了させるエンジン回転数を選択するものです。全てのギヤで同じエンジン回転数で開始または終了させたり、ギヤごとにエンジン回転数を変えて設定することができます。

1. “SELECT” ボタンを押して、“Shift light” を反転表示させます。

Brightness　Stopwatch
Shift light　System status
Display　Maintenance

2. “RESET” ボタンを押します。
3. “SELECT” ボタンを押して、“r/min setting” を反転表示させます。

4. “RESET” ボタンを押します。

要　点

- シフトタイミングインジケーターは、3000 r/min から 11000 r/min まで 500 r/min 刻みで回転数を設定することができます。
- 動作を終了させる回転数は、開始の設定をした回転数より 500 r/min 以上となります。

全てのギヤを同じエンジン回転数に設定する方法 :

1. “SELECT” ボタンを押して、“All” を反転表示させます。

2. “RESET”ボタンを押すと回転数設定モードに入り、“On” が反転表示されます。

3. “RESET” ボタンを押すと、“On” の r/min の数値が点滅します。
4. “SELECT” ボタンを押して、シフトタイミングインジケーターの表示を開始したいエンジン回転数を設定します。
5. “RESET” ボタンを押して設定したエンジン回転数を決定すると、“Off” が反転表示され、“Off” の r/min の数値が点滅します。
6. “SELECT” ボタンを押して、シフトタイミングインジケーターの表示を終了したいエンジン回転数を設定します。
7. “RESET” ボタンを押して設定したエンジン回転数を決定すると、“▲” が反転表示されます。
8. “RESET” ボタンを押し、前のメニューに戻します。

ギヤごとにエンジン回転数を設定する方法 :

1. “SELECT” ボタンを押して、“1st” から “5th” のうち、エンジン回転数を設定するギヤを反転表示させます。

2. “RESET” ボタンを押すと回転数設定モードに入り、“On” が反転表示されます。
3. “RESET” ボタンを押すと、“On” の r/min の数値が点滅します。
4. “SELECT” ボタンを押して、シフトタイミングインジケーターの表示を開始したいエンジン回転数を設定します。
5. “RESET” ボタンを押して設定したエンジン回転数を決定すると、“Off” が反転表示され、“Off” の r/min の数値が点滅します。
6. “SELECT” ボタンを押して、シフトタイミングインジケーターの表示を終了したいエンジン回転数を設定します。
7. “RESET” ボタンを押して設定したエンジン回転数を決定すると、“▲” が反転表示されます。
8. “RESET” ボタンを押し、前のメニューに戻します。
9. “SELECT” ボタンを押して、次に回転数を設定するギヤを反転表示させ、手順 2–9 を繰り返します。

要　点

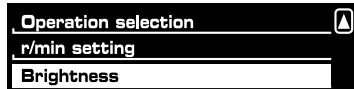
ギヤごとにエンジン回転数を設定した後、“All” を選択すると、全ての個別ギヤに設定したエンジン回転数は、初期設定の 9000 r/min （開始）と 11000 r/min （終了）に戻ります。

10. ギヤごとのエンジン回転数設定を終了するときは、“SELECT” ボタンを押して “▲” を反転表示させ、“RESET” ボタンを押して前のメニューに戻します。
11. “SELECT” ボタンを押して “▲” を反転表示させ、“RESET” ボタンを押してセレクトモードの初期画面に戻します。

シフトタイミングインジケーターの明るさ（ブライトネス）の調整

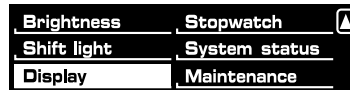
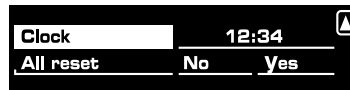
この機能は、シフトタイミングインジケーターの明るさを調整するものです。

1. “SELECT”ボタンを押して、“Brightness” を反転表示させます。

Operation selection
r/min setting
Brightness

2. “RESET”ボタンを押すと明るさ調整モードに入り、現在の明るさを示す数のセグメントが点滅します。

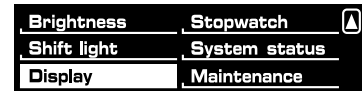
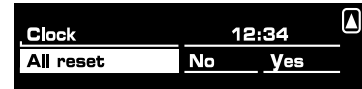
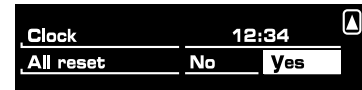
3. “SELECT” ボタンを押して、明るさを調整します。
4. 希望する明るさになったら、“RESET” ボタンを押します。
   “RESET” ボタンを押して明るさを決定すると、“▲” が反転表示されます。
5. “RESET” ボタンを押し、前のメニューに戻します。
6. “SELECT” ボタンを押して “▲” を反転表示させ、“RESET” ボタンを押してセレクトモードの初期画面に戻します。

時計の調整

1. “SELECT” ボタンを押して、“Display” を反転表示させます。

2. “RESET” ボタンを押すと、以下のメニューが表示されます。

3. “RESET” ボタンを押すと＜時＞の表示が点滅します。
4. “SELECT”ボタンを押して＜時＞を合わせます。
5. “RESET” ボタンを押すと＜分＞の表示が点滅します。
6. “SELECT”ボタンを押して＜分＞を合わせます。
7. “RESET” ボタンを押すと時計表示に戻り、“▲” が反転表示されます。
8. “RESET” ボタンを押し、セレクトモードの初期画面に戻します。

明るさ（ブライトネス）とシフトタイミングインジケーター機能の全てをリセット

明るさとシフトタイミングインジケーター機能の全ての設定をリセットします。

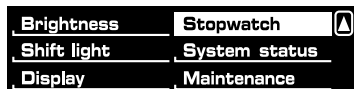
1. “SELECT” ボタンを押して、“Display” を反転表示させます。

2. “RESET” ボタンを押します。
3. “SELECT” ボタンを押して、“All reset” を反転表示させます。

4. “RESET” ボタンを押してリセットモードに入り、その後 “SELECT” ボタンを押して “Yes” を反転表示させます。

5. “RESET” ボタンを押して、明るさとシフトタイミングインジケーターの設定を初期設定にリセットします。リセットが完了すると、自動的にノーマルモードに戻ります。

要　点

続けてマルチファンクションディスプレイの設定を行うときは、“SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押しつづけて、再びセレクトモードにしてください。

ストップウォッチの使用

ストップウォッチは、以下のようにして使用します。

1. “SELECT” ボタンを押して、“Stopwatch” を反転表示させます。

2. “RESET” ボタンを押します。
3. “SELECT” ボタンを押して、“Stopwatch” を反転表示させます。

4. “RESET” ボタンを押します。
   マルチファンクションディスプレイはノーマルモードに切り替わり、ストップウォッチが時計の位置に表示されます。

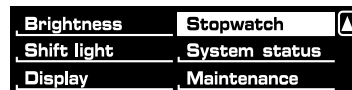
5. “SELECT”　ボタンを押して、ストップウォッチのカウントを開始します。
6. “SELECT”　ボタンまたはスタータースイッチ “㊂” を押して、ストップウォッチのカウントを一時停止します。再度、カウントを開始（継続）するには “SELECT” ボタンを押します。
7. “RESET”　 ボタンを押して、ストップウォッチをリセットします。

要　点

- カウントの一時停止中に “SELECT” ボタンまたは “RESET” ボタンを 1 分間押さないと、ストップウォッチの動作がキャンセルされて時計表示に戻ります。
- “RESET” ボタンを 2 秒以上押すと、ストップウォッチの動作をキャンセルして時計表示に戻ります。
- 続けてマルチファンクションディスプレイの設定を行うときは、“SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押しつづけて、再びセレクトモードにしてください。

カウントダウンクロックの使用

カウントダウンクロックは、以下のようにして使用します。

1. “SELECT” ボタンを押して、“Stopwatch” を反転表示させます。

2. “RESET” ボタンを押します。
3. “SELECT” ボタンを押して、“Countdown” を反転表示させます。

4. “RESET” ボタンを押します。
   マルチファンクションディスプレイはノーマルモードに切り替わり、ストップウォッチが時計の位置に表示されます。また、トランスミッションギヤインジケーターがカウントダウンクロックに切り替わります。

5. “SELECT” ボタンを押すかギヤを入れると、カウントダウンクロックが、“5” からカウントダウンを開始します。同時に、シフトタイミングインジケーターが表示された数字に従って点滅します。（例えば、“5” が表示されたとき、イン

ジケーターは 5 回点滅し、“4” が表示されたとき、インジケーターは 4 回点滅します。）カウントダウンクロックが“0”になると、ストップウォッチがカウントを開始します。

6. “SELECT” ボタンまたはスタータースイッチ “(⦾)” を押して、ストップウォッチのカウントを一時停止します。再度、カウントを開始（継続）するには “SELECT” ボタンを押します。
7. “RESET” ボタンを押すと、ストップウォッチがリセットされ、カウントダウンの開始待ちになります。
8. 手順5–7を繰り返してカウントダウンクロックを使用するか、“RESET” ボタンを2秒以上押してノーマルモードに戻します。

要　点

続けてマルチファンクションディスプレイの設定を行うときは、**必ずギヤをニュートラルにしてください。**その後 “SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押しつづけて、再びセレクトモードにしてください。

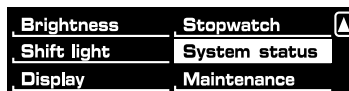
システムステータスの確認とリセット

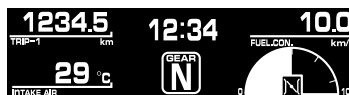
以下の項目と状況が表示され、トリップメーターをリセットすることができます。

- トリップメーター／オドメーター
- 燃料消費
- 吸気温度
- スロットル開度

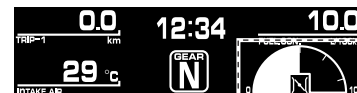
要　点

- 燃料残量警告灯または水温警告灯が点灯しているときは、“System status” メニューにすることはできません。
- エンジンがかかっていて “System status” メニューが表示されているとき、燃料残量警告灯または水温警告灯が点灯すると、自動的にノーマルモードに切り替わります。

1. “SELECT” ボタンを押して、“System status” を反転表示させます。

2. “RESET” ボタンを押します。
3. “SELECT” ボタンを押して “Yes” を反転表示させ、“RESET” ボタンを押します。（“No” を反転表示させて “RESET” ボタンを押すと、前のメニューに戻ります。）

表示が、ステータス画面に切り替わります。

“SELECT” ボタンを押すごとに、“ODO” と “TRIP” が下記の順で切り替わります。

(TRIP-F) → TRIP-1 → TRIP-2 → ODO → (TRIP-F)

“RESET” ボタンを押して、トリップメーターをリセットします。

要　点

- “RESET”ボタンを押してトリップメーターをリセットすると、5 秒間ノーマルモードを表示した後、トリップメーターの走行距離がリセットされたシステムステータスの画面に戻ります。
- “SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押すと、表示はノーマルモードに切り替わります。
- 続けてマルチファンクションディスプレイの設定を行うときは、“SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押しつづけて、再びセレクトモードにしてください。

メンテナンスカウンターのリセット

この機能は、タイヤ、エンジンオイル、ご自身で決めた項目のメンテナンスカウンターをリセットするものです。

1. “SELECT” ボタンを押して、“Maintenance” を反転表示させせます。

Brightness	Stopwatch
Shift light	System status
Display	Maintenance

2. “RESET” ボタンを押します。
3. “SELECT” ボタンを押して、リセットしたい項目を反転表示させます。

Tire	km	12345	reset
Oil	km	12345	reset
	km	12345	reset

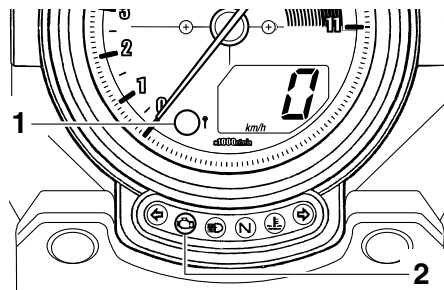
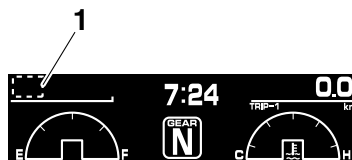
4. “RESET” ボタンを押して、選択した項目の走行距離をリセットします。

要　点

- 3 段目の項目は、ご自身が交換または点検（例えばエアークリーナーエレメント、エンジン部品など）を実施した以降の走行距離を確認するための項目として空白になっています。
- 空白部分には、文字や数字の入力はできません。

Tire	km	12345	reset
Oil	km	12345	reset
	km	12345	reset

5. “SELECT” ボタンを押して、“▲” を反転表示させます。
6. “RESET” ボタンを押して、セレクトモードの初期画面に戻します。

自己診断機能

1. イモビライザーシステム表示灯
2. エンジン警告灯 “⌂”

1. エラーコード表示

このモデルには電気回路の自己診断装置が備わっています。
回路のいずれかが故障した場合、エンジン警告灯が点灯しマルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示されます。
また、このモデルにはイモビライザーシステムの自己診断機能も備わっています。

イモビライザーシステムが故障した場合は、イモビライザーシステム表示灯が点滅しマルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示されます。
マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示された場合、エラーコードを控え、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。
マルチファンクションディスプレイにエラーコード 52 が表示されたときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性がありますので、3 本のキー全てでエンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合は、お買い上げのヤマハ販売店に相談してください。

要　点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。（この車のキーも含みます。）ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

JCA15951

注 意

マルチファンクションディスプレイがエラーコードを表示している時は、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早くヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

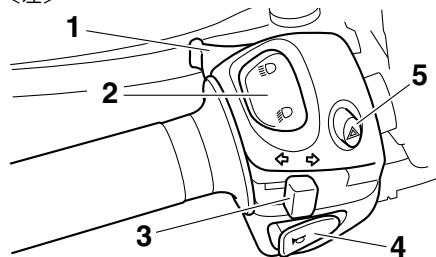
JAU12332

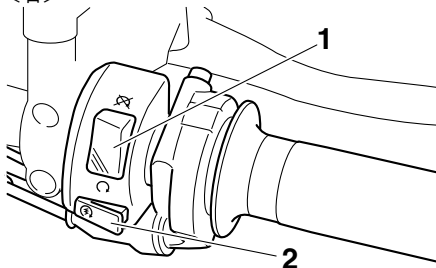
盗難警報器（オプション）

この車には、オプションで盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU1234F

ハンドルスイッチ

<左>

1. パッシングライトスイッチ “≣D”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣D/≣D”
3. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
4. ホーンスイッチ “ ”
5. ハザードスイッチ “△”

<右>

1. エンジンストップスイッチ “ / ”
2. スタータースイッチ “ ”

JAU12351

パッシングライトスイッチ “≣D”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが “≣D” のときは、使用できません。

JAU12401

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣D/≣D”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。
≣D（上向き）：遠くを照らします。
≣D（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU12461

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
⇨：右側の方向指示灯が点滅します。
⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ “📯”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28182

エンジンストップスイッチ “⨂/◯”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は “◯” にしておきます。

JWA12101

警 告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12351

注 意

- **非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、エンジンストップスイッチを “◯”→“⨂”→“◯” にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。**

要 点

“⨂” にすると、エンジンは始動できません。

JAU12713

スタータースイッチ “⚡”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11882

注 意

- **スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。**

JAU33811

ハザードスイッチ “△”

メインスイッチを ON にした状態でスイッチを押し、ハザードランプを点灯させます（全ての方向指示器が点滅します）。
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU51671

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

警 告

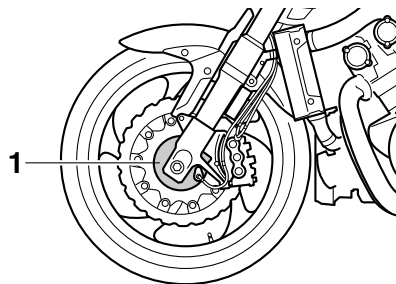
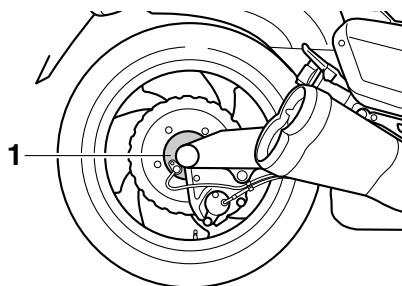
- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。**

要 点

- ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- このABSには、ABSが作動している状態（ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、このテストを行う際にはヤマハ販売店にご相談ください。

JCA16121

注 意

永久磁石や帯磁したピックアップツール、帯磁したドライバーなどは、フロントホイールハブまたはリヤホイールハブに近づけないでください。ホイールハブに装備されたマグネチックローターが損傷し、ABS の性能が低下するおそれがあります。

1. フロントホイールハブ

1. リヤホイールハブ

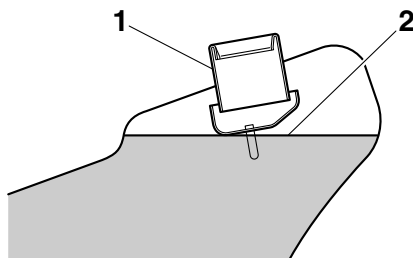
JAU46851

フューエルタンクキャップ

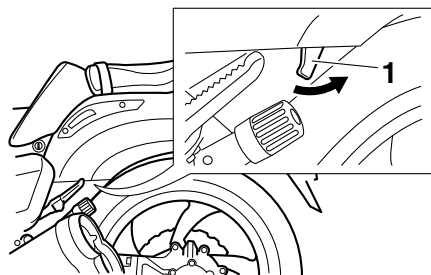
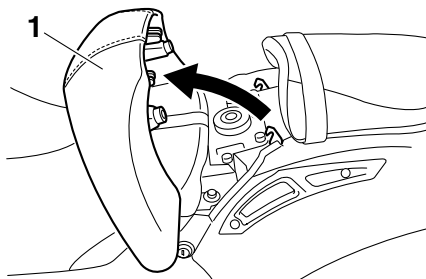
JWA12172

警 告

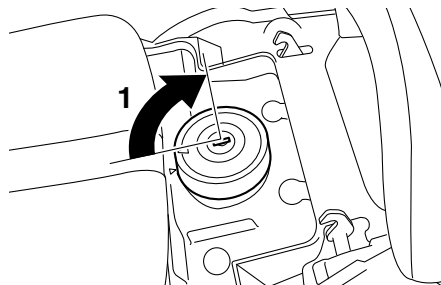
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**

1. フィラーチューブ
2. 給油限度

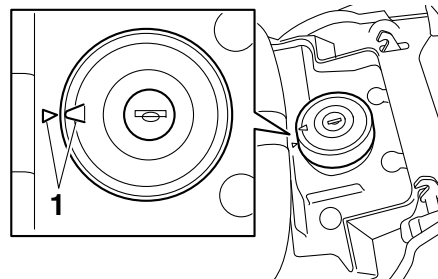
フューエルタンクキャップの取り外しかた

1. 車体左側にあるライダーバックレスト解除レバーを図のように引くと、ライダーバックレストが前方にスライドします。

1. ライダーバックレスト解除レバー

1. ライダーバックレスト

2. キーをロックに差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除し、フューエルタンクキャップを取り外します。

1. 解除

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. キーをロックに差し込んだ状態で、フューエルタンクキャップとフューエルタンクの合マークを合わせて給油口に差し込みます。

1. 合マーク

2. キーを反時計方向に 1/4 回し、キーを抜き取ります。
3. ライダーバックレストを元の位置に戻してロックします。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28332

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 15.0 L

JCA12512

注 意

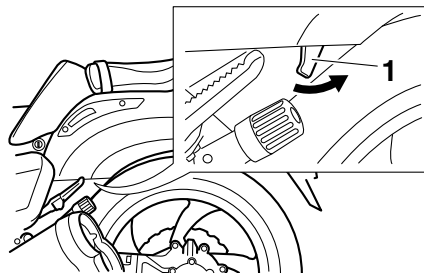
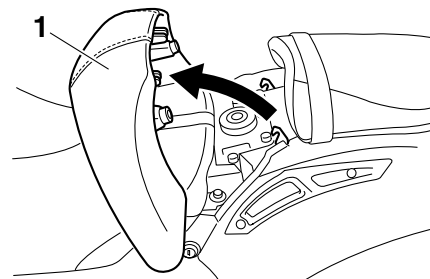
- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU46843

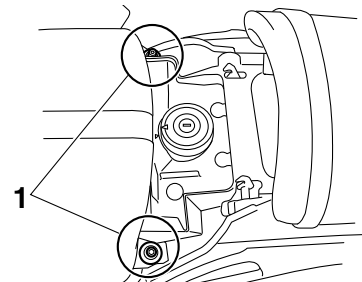
シート

ライダーシート

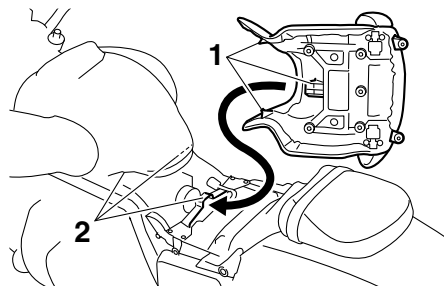
ライダーシートの取り外しかた

1. 車体左側にあるライダーバックレスト解除レバーを図のように引くと、ライダーバックレストが前方にスライドします。

1. ライダーバックレスト解除レバー

1. ライダーバックレスト

2. ボルトを外し、ライダーシートを取り外します。

1. ボルト

ライダーシートの取り付けかた

1. ライダーシート前部の突起を、図のようにシートホルダーに差し込みます。

1. 突起
2. シートホルダー

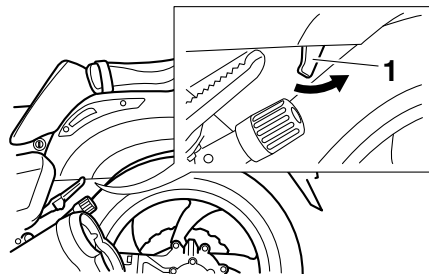
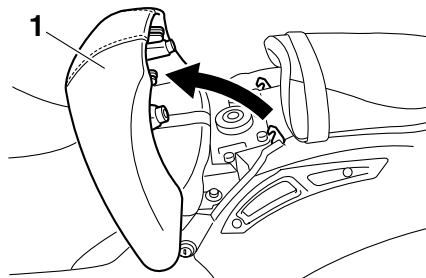
2. ライダーシートを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。
3. ライダーバックレストを元の位置に戻してロックします。

要　点

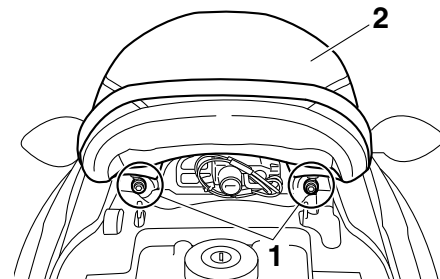
走行前に必ず、ライダーシートが正しく取り付けられていることを確認してください。

タンデムシート

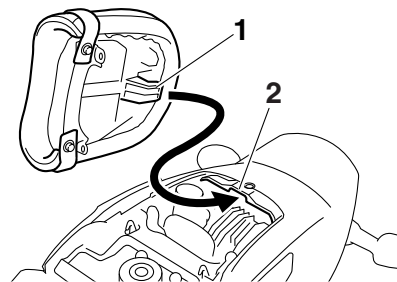
タンデムシートの取り外しかた

1. 車体左側にあるライダーバックレスト解除レバーを図のように引くと、ライダーバックレストが前方にスライドします。

1. ライダーバックレスト解除レバー

1. ライダーバックレスト

2. ボルトを外し、タンデムシートを取り外します。

1. ボルト
2. タンデムシート

タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの突起を、図のようにシートホルダーに差し込みます。

1. 突起
2. シートホルダー

2. タンデムシートを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

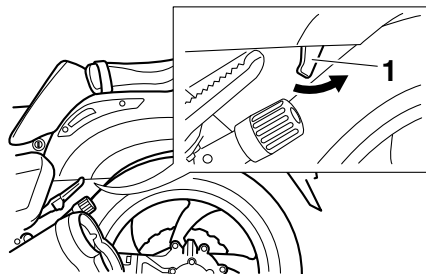
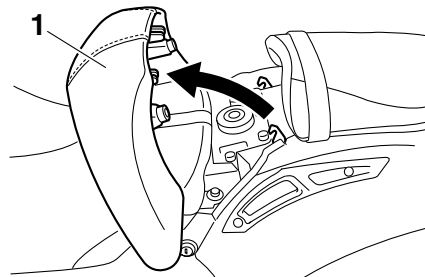
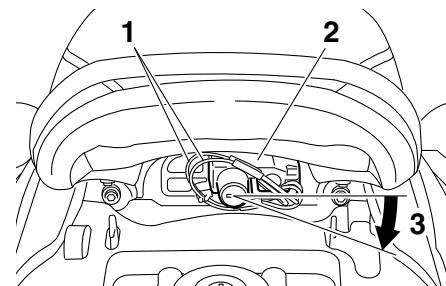
3. ライダーバックレストを元の位置に戻してロックします。

要　点

走行前に必ず、タンデムシートが正しく取り付けられていることを確認してください。

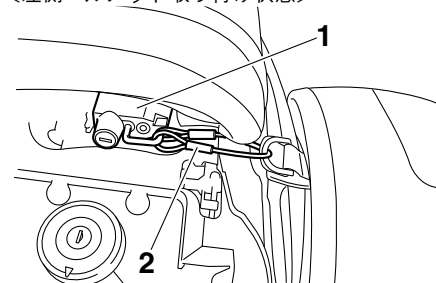
JAU47961

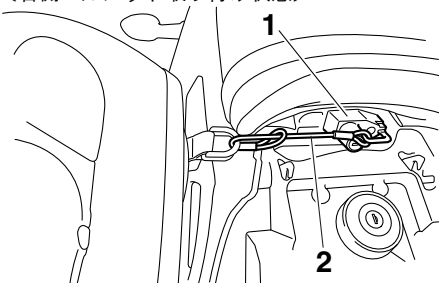
ヘルメットホルダー

車体左側にあるライダーバックレスト解除レバーを図のように引き、ライダーバックレストを前方にスライドさせると、タンデムシート前方の下側にヘルメットホルダーがあります。
ヘルメットホルダーは、キーでロックを解除して使用します。

1. ライダーバックレスト解除レバー

1. ライダーバックレスト

1. ヘルメットホールディングケーブル
2. ヘルメットホルダー
3. 解除

収納されているヘルメットホールディングケーブル（2 本）を使用し、図のようにヘルメットをヘルメットホルダーに掛けて、ライダーバックレストを元の位置に戻してください。

＜左側ヘルメット取り付け状態＞

1. ヘルメットホルダー
2. ヘルメットホールディングケーブル

<右側ヘルメット取り付け状態>

1. ヘルメットホルダー
2. ヘルメットホールディングケーブル

要　点

- ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。
- ライダーバックレストがロックされていることを確認してください。

JWA11651

⚠ 警 告

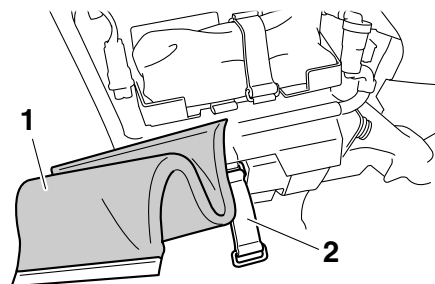
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

JAU47972

書類入れ

カバーB を外すと、書類入れ（収納用ポーチ）があります。（カバーの取り外しは 6-2 ページを参照）

車検証、保険証、メンテナンスノート、取扱説明書はビニール袋に入れ、書類入れに保管します。

書類入れは、S 字に折りたたんでバンドで固定してください。

1. 書類入れ
2. バンド

JAU14734

フロントフォークの調整

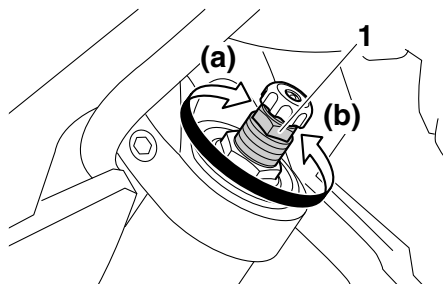
フロントフォークには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA11481

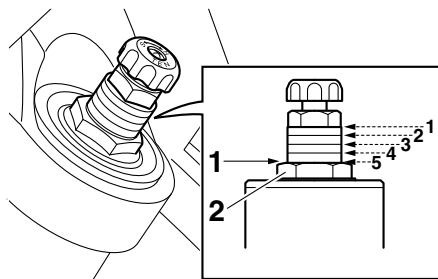
⚠ 警 告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

スプリングプリロード

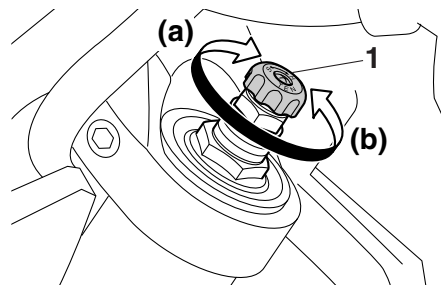
スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、左右のフロントフォークのスプリングプリロードアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションを軟らかくするには、左右のフロントフォークのスプリングプリロードアジャスターを (b) 方向に回します。

1. スプリングプリロードアジャスター

要　点

アジャスターの溝とフロントフォークキャップボルトの上端を合わせます。

1. 調整位置
2. フロントフォークキャップボルト

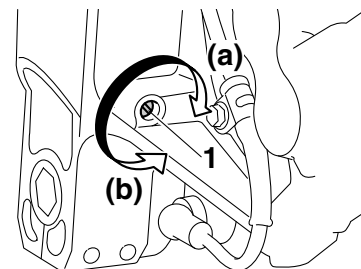
スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
5 段
標準：
4 段
最大（ハード）：
1 段

伸側減衰力

伸側減衰力を強めるには、左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるには、左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。
（アジャスターを（a）方向にいっぱいに回してから、（b）方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）

1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
17 段
標準：
12 段
最大（ハード）：
1 段

圧側減衰力

圧側減衰力を強めるには、左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱めるには、左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。
（アジャスターを（a）方向にいっぱいに回してから、（b）方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）

1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：
　最小（ソフト）：
　　20 段
　標準：
　　12 段
　最大（ハード）：
　　1 段

JCA11911

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要　点

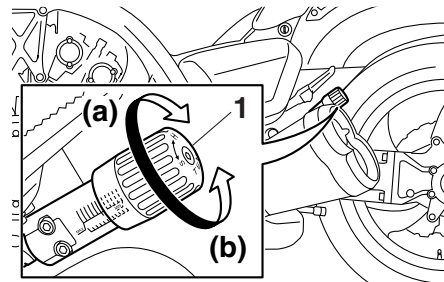
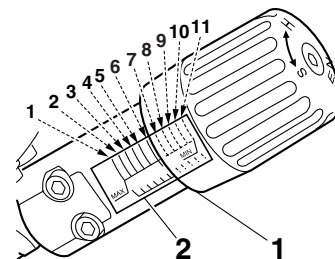
アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JAU46494

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

スプリングプリロード

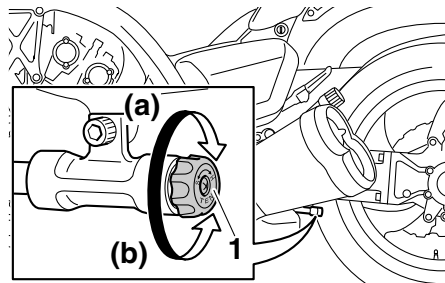
スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、スプリングプリロードアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションを軟らかくするには、スプリングプリロードアジャスターを (b) 方向に回します。

1. スプリングプリロードアジャスター

1. アジャスター先端
2. 目盛

要　点

アジャスター先端と目盛の溝を合わせて調整します。

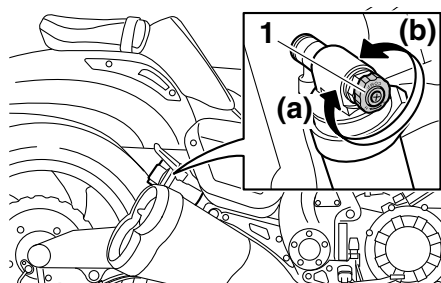
スプリングプリロード：
　最小（ソフト）：
　　11 段
　標準：
　　6 段
　最大（ハード）：
　　1 段

伸側減衰力

伸側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱め、サスペンションを軟らかくするには、伸側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。
（アジャスターを（a）方向にいっぱいに回してから、（b）方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）

1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）： 20 段
標準： 12 段
最大（ハード）： 3 段

圧側減衰力

圧側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、圧側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱め、サスペンションを軟らかくするには、圧側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。
（アジャスターを（a）方向にいっぱいに回してから、（b）方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）

1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：
最小（ソフト）： 12 段
標準： 10 段
最大（ハード）： 1 段

JCA11911

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要　点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA10222

警 告

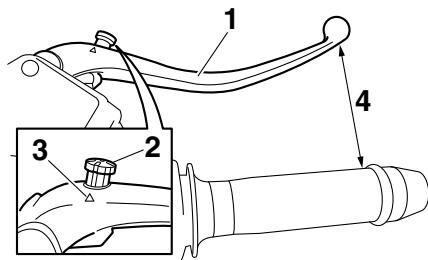
リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU47982

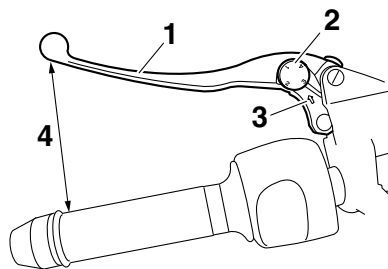
ブレーキレバー／クラッチレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバー、クラッチレバーの握り幅が 4 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回して行います。

＜ブレーキレバー＞

1. ブレーキレバー
2. アジャスター
3. “△” マーク
4. 握り幅

要　点

アジャスターの溝と “△” マークを、必ず合わせてください。

＜クラッチレバー＞

1. クラッチレバー
2. アジャスター
3. 矢印マーク
4. 握り幅

要　点

アジャスターの数字と矢印マークを、必ず合わせてください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU44893

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11541

⚠ 警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

エンジンが停止した状態で：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.エンジンストップスイッチを"◯"にします。
3.メインスイッチをONにします。
4.ギヤをニュートラルに入れます。
5.スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが始動した状態のまま：
6.サイドスタンドを上げます。
7.クラッチレバーを握ります。
8.ギヤを入れます。
9.サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？
はい
いいえ
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが停止した後：
10.サイドスタンドを上げます。
11.クラッチレバーを握ります。
12.スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

JAU15598

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU48711

要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- メインスイッチが ON のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。このとき、マルチファンクションディスプレイにエラーコード 30 を表示しますが、故障ではありません。また、この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。このリセット操作を行うと、エラーコード 30 も表示されなくなります。
- 車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU48032

エンジン始動

JWA11562

⚠ 警 告

- **エンジンを始動するときには、3-26 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが “◯” にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルグリップを完全に閉めます。
4. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要　点

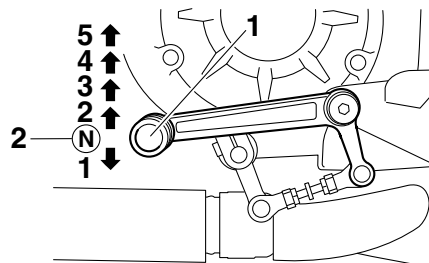
スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU27514

ギヤチェンジのしかた

1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の 5 段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12032

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

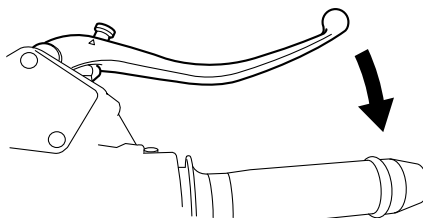
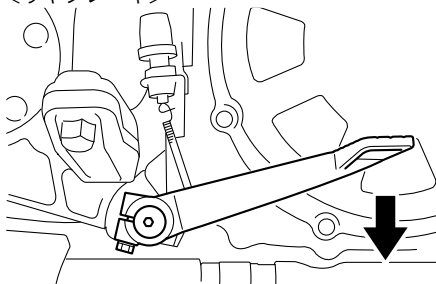
JAU33174

ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞

＜リヤブレーキ＞

JWA11573

警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。**

JAU31471

ならし運転

JAU27663

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 5700 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

警告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

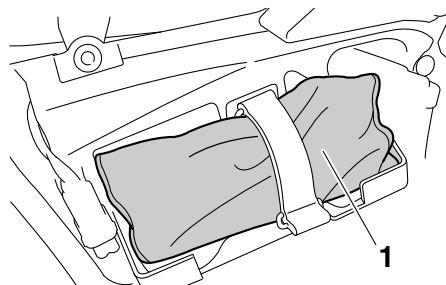
JWA15461

警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

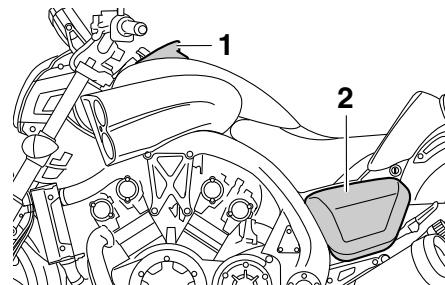
JAU17342

サービスツール

1. サービスツール

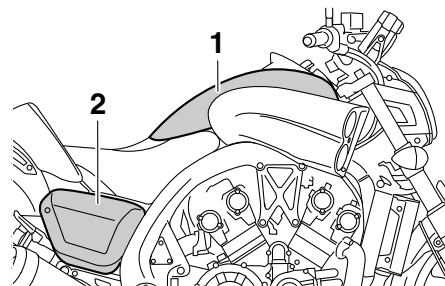
サービスツールはカバーB の後ろ側にあります。（カバーの取り外しは次の項目を参照してください。）

JAU18752

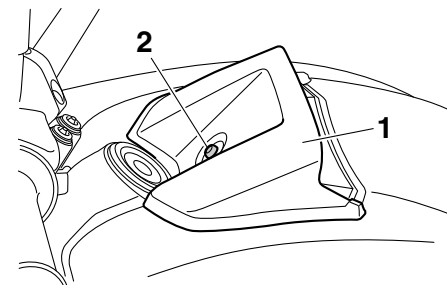
カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

1. カバー A
2. カバー B

1. カバー C
2. カバー D

JAU47941

カバー A

カバーの取り外しかた

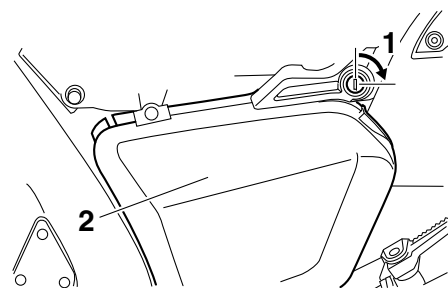
ボルトを外し、カバーを取り外します。

1. カバー A
2. ボルト

カバーの取り付けかた

カバーを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

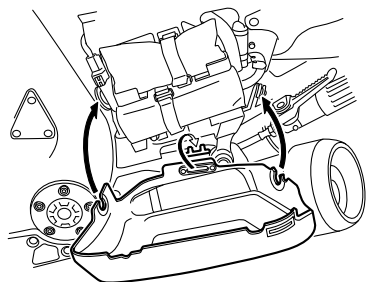
カバー B

カバーの取り外しかた

1. キーをロックに差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。

1. 解除
2. カバー B

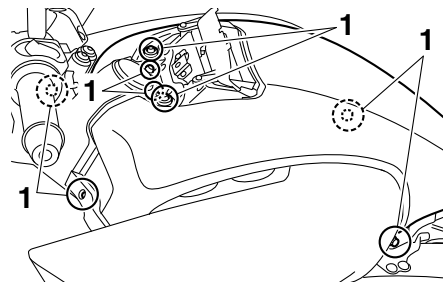
2. カバー上側を手前に引いて取り外します。

カバーの取り付けかた

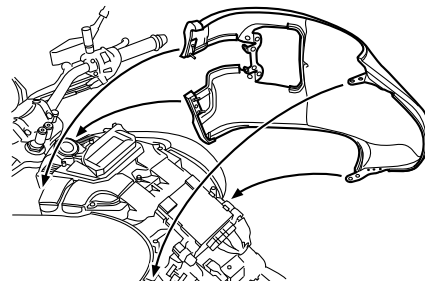
1. カバーを元の位置に取り付けます。

2. キーを反時計方向に 1/4 回してロックし、キーを抜き取ります。

カバー C

カバーの取り外しかた

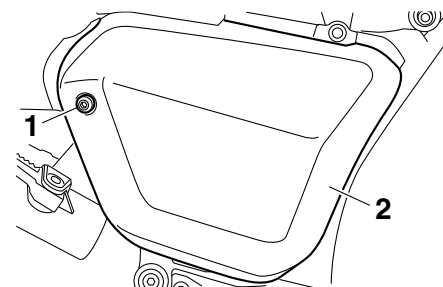
1. ライダーシートを取り外します。(3-18 ページ参照)
2. カバー A を取り外します。
3. ボルトを外し、カバーを取り外します。

1. ボルト

カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

2. カバー A を取り付けます。
3. ライダーシートを取り付けます。

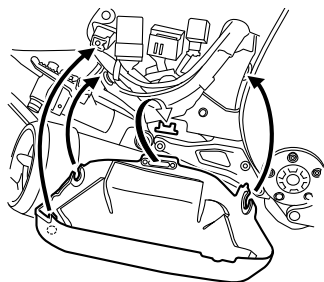
カバー D

カバーの取り外しかた

1. ボルトを取り外します。

1. ボルト
2. カバー D

2. カバー上側を手前に引いて取り外します。

カバーの取り付けかた

カバーを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

JAU30374

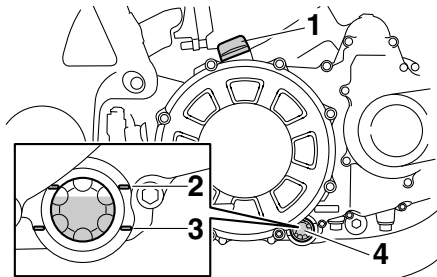
エンジンオイル

エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、2～3分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

1. オイル注入口
2. フルレベル
3. ロアレベル
4. エンジンオイル点検窓

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。

＜推奨エンジンオイル＞

	SAE	JASO
ヤマハ純正オイル ヤマループプレミアム	10W–40	MA
ヤマハ純正オイル ヤマループスポーツ	10W–40	MA
ヤマハ純正オイル ヤマループスタンダードプラス	10W–40	MA

JAU47503

エンジンオイルの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
定期交換時オイル量：
　オイルフィルターカートリッジ無交換時：4.30 L
　オイルフィルターカートリッジ交換時：4.70 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　30000 km 走行ごと

JWA11861

警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12102

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルヤマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30673

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 走行時
2 回目以降：
　10000 km 走行毎
定期交換時オイル量：
　0.30 L
推奨オイル：
　ヤマハドライブシャフトオイル

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194
低速、加速の状態の点検
低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。
- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531
警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

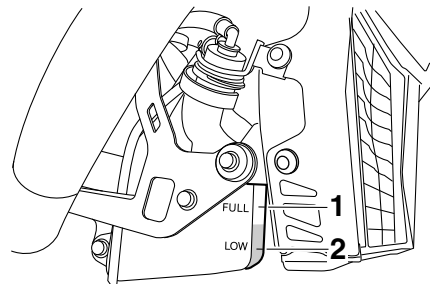
アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール(エンスト)やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071
冷却水

JAU30723
冷却水量の点検

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。

1. フルレベル
2. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30804
冷却水のつくりかた
ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。

JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

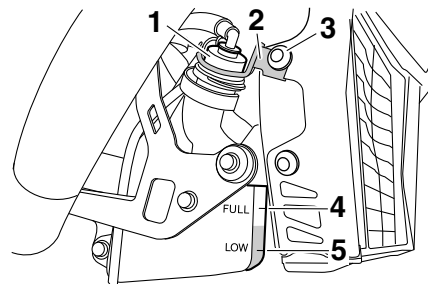
JCA12111

注 意

補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU47951

冷却水の補充

ボルトを外し、リカバリータンクキャップガードを取り外します。
リカバリータンクキャップを取り外し、冷却水をフルレベルとロアレベルの中間まで補充します。

1. リカバリータンクキャップ
2. リカバリータンクキャップガード
3. ボルト
4. フルレベル
5. ロアレベル

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

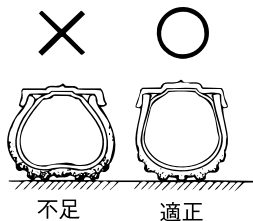
JAU36765

エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。
ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU31026

タイヤ

空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

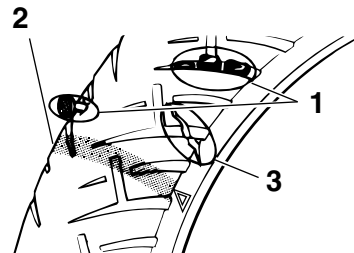
タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
2 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
高速走行（1 名乗車）：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
高速走行（2 名乗車）：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：
前輪：
120/70R18M/C 59V
後輪：
200/50R18M/C 76V
指定タイヤ：
前輪：
BRIDGESTONE/BT028F
後輪：
BRIDGESTONE/BT028R

JAU28891

クラッチ

クラッチレバーの遊びの点検

クラッチレバーの遊びは無調整式です。クラッチレバーを手で作動させ、手ごたえを感じるかどうか確認します。

JWA11791

警　告

クラッチレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU31121

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びは無調整式です。ブレーキレバーおよびブレーキペダルを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

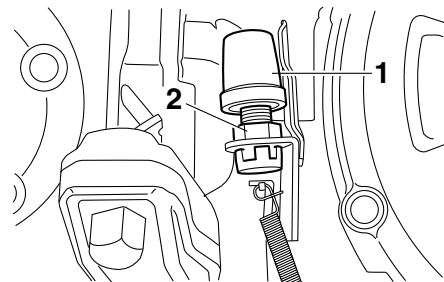
警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

6

JAU22274

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。
リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。

1. リヤブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

JCA12081

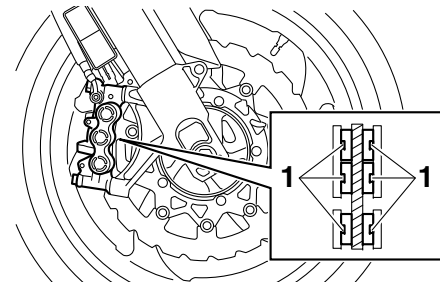
注 意

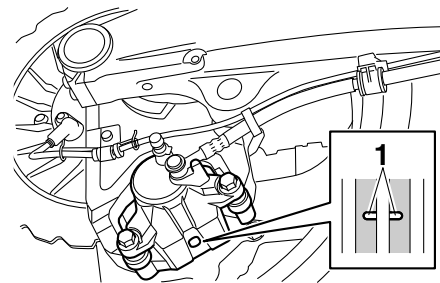
リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU58570

ブレーキパッドの点検

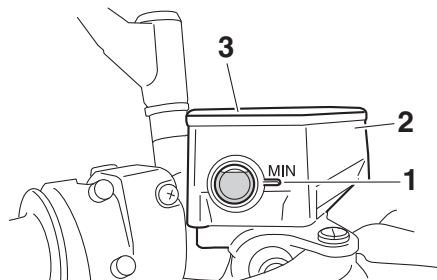
ブレーキパッドの摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。
＜フロントブレーキ＞

1. インジケーター溝

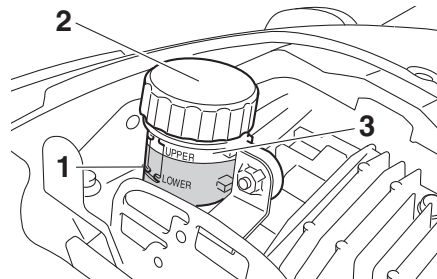
ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら交換してください。
＜リヤブレーキ＞

1. インジケーター溝

ブレーキパッドのインジケーター溝がなくなったら交換してください。

JAU47923

ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞

1. ロアレベル
2. リザーバータンク
3. マスターシリンダーキャップ

＜リヤブレーキ＞

1. ロアレベル
2. ブレーキリザーバータンクキャップ
3. リザーバータンク

マスターシリンダーキャップ（ブレーキリザーバータンクキャップ）上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上あるかを点検します。
（ブレーキ液の補給は、6-12 ページ参照）
リヤのリザーバータンクの液量の点検は、タンデムシートを取り外して行います。（3-18 ページ参照）

JWA12151

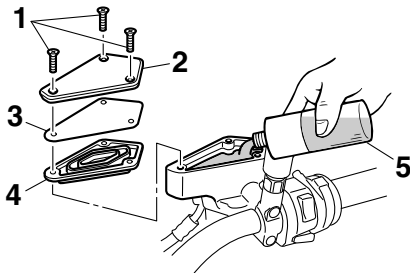
警 告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

JAU47933

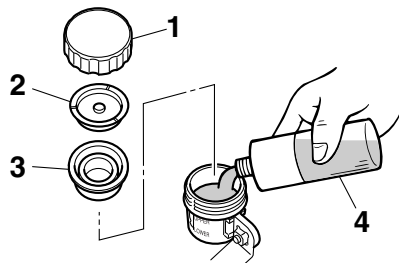
ブレーキ液の補給

<フロントブレーキ>

1. マスターシリンダーのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。

1. スクリュー
2. キャップ
3. ダイヤフラムブッシュ
4. ダイヤフラム
5. ブレーキ液

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、スクリューを締め付けます。

<リヤブレーキ>

1. タンデムシートを取り外します。(3-18ページ参照)
2. リザーバータンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
3. キャップを外し、ダイヤフラムブッシュとダイヤフラムを取り外します。
4. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。

1. キャップ
2. ダイヤフラムブッシュ
3. ダイヤフラム
4. ブレーキ液

5. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、キャップを取り付けます。
6. タンデムシートを取り付けます。

指定ブレーキ液：
ヤマルーブ ブレーキフルード BF-4 (DOT-4)

JWA12072

警告

- **ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。**
- **ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。**
- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

JCA12331

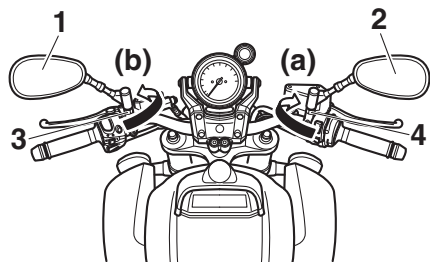
注意

- **ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。**
- **ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。**

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。

1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。

締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

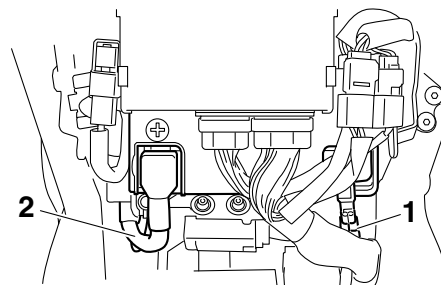
JCA12142

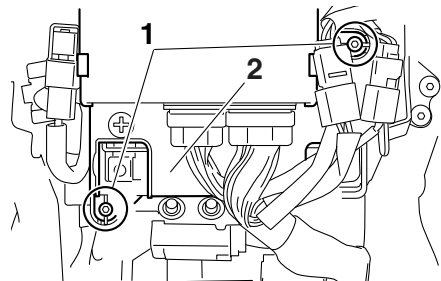
注 意

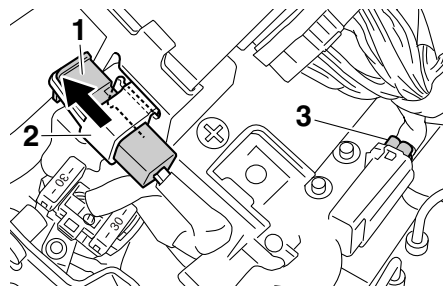
- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

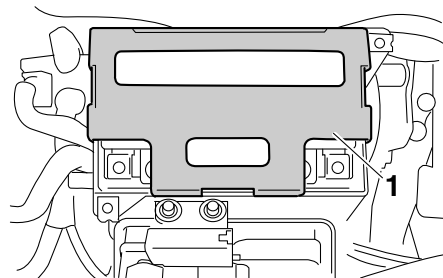
JAU48001

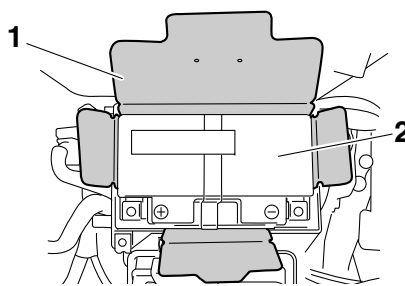
バッテリーの取り外し

1. カバー C を取り外します。(カバーの取り外しは 6-2 ページ参照)
2. －（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。

1. －リード線
2. ＋リード線

3. ボルトを外し、バッテリーカバー (ECU と共に) を取り外します。

1. ボルト
2. バッテリーカバー

4. メインヒューズ (ホールディングバンドと共に) をホルダーから取り外します。
5. カプラーを取り外します。

1. メインヒューズ
2. ホールディングバンド
3. カプラー

6. ダンパーを取り外します。

1. ダンパー

7. 図のようにヒートインシュレーターを開きます。

1. ヒートインシュレーター
2. バッテリー

8. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

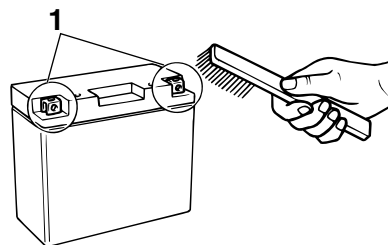
取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

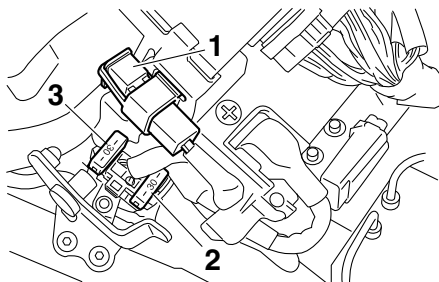
JAU29411

ターミナル部の清掃

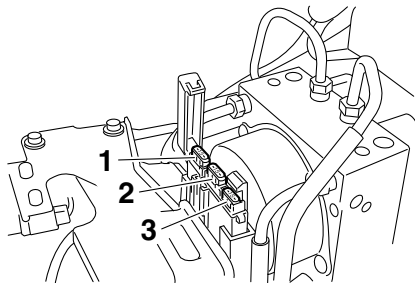
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

1. ターミナル

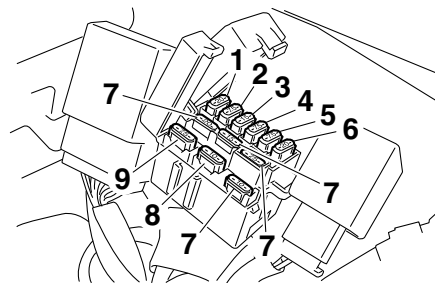
JAU46455

ヒューズの交換

メインヒューズと ABS モーターヒューズは、カバーC を外したところにあります。(カバーの取り外しは 6-2 ページ参照)

1. メインヒューズ
2. ABS モーターヒューズ
3. スペア ABS モーターヒューズ

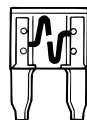
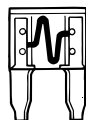
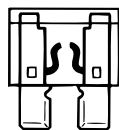
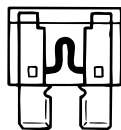
系統別ヒューズボックス 1 は、ライダーシートを外したところにあります。(3-18 ページ参照)

系統別ヒューズボックス **1**

1. ABS ソレノイドヒューズ
2. フューエルインジェクションヒューズ
3. スペアヒューズ

系統別ヒューズボックス 2 は、カバー D を外したところにあります。(カバーの取り外しは 6-2 ページ参照)

系統別ヒューズボックス **2**

1. イグニッションヒューズ
2. ABS コントロールユニットヒューズ
3. ヘッドライトヒューズ
4. バックアップヒューズ(時計/イモビライザーシステム)
5. 電子制御スロットルバルブヒューズ
6. ラジエターファンヒューズ
7. スペアヒューズ
8. シグナルヒューズ
9. サブラジエターファンヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：
メイン：
50.0 A
イグニッション：
20.0 A
シグナル：
10.0 A
ヘッドライト：
15.0 A
ラジエターファン：
20.0 A
サブラジエターファン：
7.5 A
フューエルインジェクション：
15.0 A
ABS コントロールユニット：
7.5 A
ABS モーター：
30.0 A
ABS ソレノイド：
15.0 A
バックアップ：
7.5 A
電子制御スロットルバルブ：
7.5 A

JCA12862

注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29443

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-16 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12062

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（「製品仕様」のページを参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

6

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35123

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

JCA13083

注 意

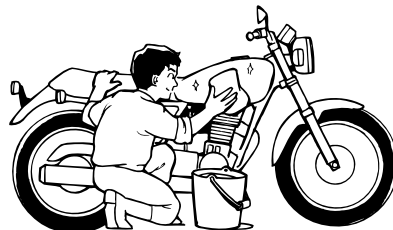
お車によってはマット塗装（ツヤ消し塗装）が施されています。お車の手入れの前にヤマハ販売店で、どのようなアフターケア用品を使用したら良いか、ご相談することをおすすめします。また、マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。ふき残しなどにより、外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**
- **マット塗装部分の補修が必要な場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。**

JAU27846

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

JWA11931

警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**
- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性**

洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

- 書類入れ付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

7

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

警 告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

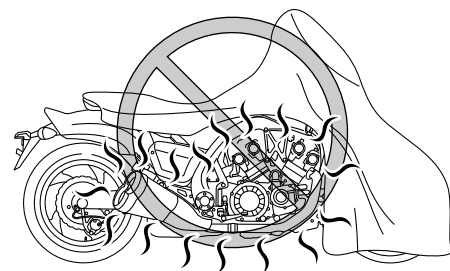
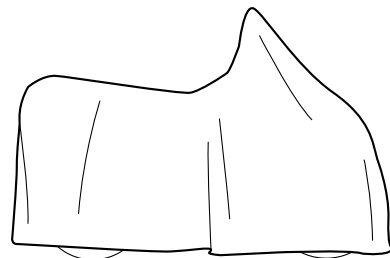
JCA12221

注 意

- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28083

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28113

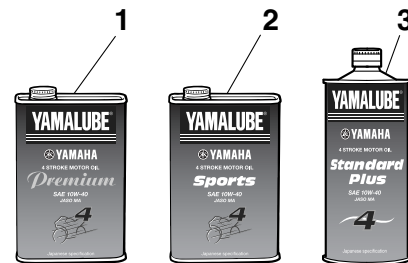
ヤマルーブプレミアム

高回転・高負荷下でも油膜保持性能が高く、高性能エンジン搭載の中・大型車に最適な高品質オイルです。

ヤマルーブスポーツ

オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなどでも優れた性能を発揮するマルチタイプのオイルです。

ヤマルーブスタンダードプラス

タウン走行から、タフな業務使用にも適し、経済的にも優れたコストパフォーマンスオイルです。

1. ヤマルーブプレミアム
2. ヤマルーブスポーツ
3. ヤマルーブスタンダードプラス

JAU28172

ヤマルーブ ロングライフクーラント

水冷専用。過酷な状況でも安定した冷却効果と優れた防錆、防食力のある不凍液です。

JAU28202

ヤマルーブ ブレーキフルード BF-4 (DOT-4)

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。

JAU48261

ドライブシャフトオイル

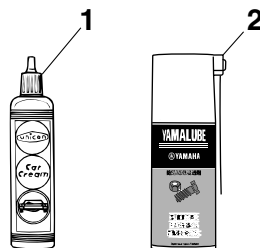
過酷な潤滑条件となるドライブシャフトギヤを保護し、長期にわたり円滑な作動を維持するオイルで、極圧性能を高めるとともに耐熱性を向上したオイルです。

JAU28362

ユニコンカークリーム（ワックス）

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

ヤマルーブ 防錆潤滑浸透剤

防錆、潤滑、防湿、浸透力に優れた金属保護液です。

1. ユニコンカークリーム
2. ヤマルーブ 防錆潤滑浸透剤

寸法 :
全長 :
2395 mm
全幅 :
820 mm
全高 :
1190 mm
シート高 :
775 mm
軸間距離 :
1700 mm
最低地上高 :
140 mm

重量 :
車両重量 :
311 kg
分布荷重（前）:
156 kg
分布荷重（後）:
155 kg
車両総重量 :
421 kg
分布荷重（前）:
179 kg
分布荷重（後）:
242 kg
乗車定員 :
2 名

性能 :
定地燃費（国土交通省届出値）:
16.0 km/L/60 km/h
最小回転半径 :
3500 mm
最高出力 :
111 kW@7500 r/min (151 PS@7500 r/min)
最大トルク :
148 Nm@6000 r/min (15.1 kgf-m@6000 r/min)

エンジン :
原動機種類 :
4 ストローク水冷 DOHC
気筒数・配列 :
V 型 4 気筒
総排気量 :
1679 cm^3
内径 × 行程 :
90.0 × 66.0 mm
圧縮比 :
11.30 : 1
エアフィルターエレメント :
湿式ろ紙
クラッチ形式 :
湿式多板
変速機形式 :
常時噛合式 5 速
始動方式 :
セル式

車体 :
フレーム形式 :
ダイヤモンド
キャスター :
31.00 °
トレール :
148 mm

ステアリングシステム :
ハンドル切れ角（左）:
35.0 °
ハンドル切れ角（右）:
35.0 °

燃料 :
フューエルタンク容量 :
15.0 L
予備容量 :
3.9 L

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式ダブルディスクブレーキ

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ

懸架方式 :
種類（前）:
テレスコピック
種類（後）:
スイングアーム（リンク式）

緩衝方式 :
ショックアブソーバータイプ（前）:
コイルスプリング / オイルダンパー
ショックアブソーバータイプ（後）:
コイルスプリング / ガスオイルダンパー

フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス

サイズ :
120/70R18M/C 59V
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BT028F

リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
200/50R18M/C 76V
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BT028R

トランスミッション :
1 次減速比 :
1.508 (86/57)
1 速 :
2.375 (38/16)
2 速 :
1.810 (38/21)
3 速 :
1.400 (35/25)
4 速 :
1.115 (29/26)
5 速 :
0.935 (29/31)
2 次減速比 :
3.082 (22/23 x 29/09)

エレクトリカル :
点火方式 :
TCI

ヘッドライト :
ヘッドライト球 :
ハロゲンバルブ

バルブワット数 x 個数 :
ヘッドライト :
12 V, 60.0 W/55.0 W × 1
テール / ブレーキランプ :
LED
方向指示灯（前）:
12 V, 10.0 W × 2
方向指示灯（後）:
12 V, 10.0 W × 2
番号灯 :
12 V, 5.0 W × 1
メーター灯 :
LED
マーカーランプ :
12 V, 5.0 W × 1

パイロットランプワット数 x 個数 :
ニュートラルランプ :
LED
方向指示器表示灯 :
LED
オイルレベル警告灯 :
LED
ヘッドライト上向き表示灯 :
LED
燃料残量警告灯 :
LED
冷却水温警告灯 :
LED
ABS 警告灯 :
LED
エンジン警告灯 :
LED
イモビライザーシステム表示灯 :
LED
シフトタイミングインジケーターランプ :
LED

エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアム、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量 :
オイルフィルターカートリッジ無交換時 :
4.30 L
オイルフィルターカートリッジ交換時 :
4.70 L

ドライブシャフトオイル :
オイル量 :
0.30 L

クーリングシステム :
リザーブタンク容量（FULL レベル）:
0.27 L
冷却水容量（ラジエターと全ての経路）:
3.75 L

ケーブルとレバーの遊び :
スロットルグリップ遊び :
3.0–5.0 mm

フロントディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
4.5 mm
使用限度 :
0.8 mm
パッド厚さ（外側）:
4.5 mm

使用限度 :
0.8 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
リヤディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
5.4 mm
使用限度 :
0.8 mm
パッド厚さ（外側）:
5.4 mm
使用限度 :
0.8 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
ホイールトラベル :
ホイールトラベル（前）:
120.0 mm
ホイールトラベル（後）:
110.0 mm
タイヤ空気圧（冷間時）:
前輪（1 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪（1 名乗車）:
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
前輪（2 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪（2 名乗車）:
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
高速走行 :
前輪（1 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪（1 名乗車）:
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
前輪（2 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪（2 名乗車）:
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
バッテリー :
バッテリー型式 :
YTZ14S
バッテリー容量 :
12 V, 11.2 Ah
点火タイミング :
点火時期 (B. T. D. C.):
3.0 °/1000 r/min
スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK/CR9EIA-9
メーカー / 型式 :
DENSO/IU27D
プラグギャップ :
0.8–0.9 mm
ヒューズ容量 :
メイン :
50.0 A
ヘッドライト :
15.0 A
シグナル :
10.0 A
イグニッション :
20.0 A
ラジエターファン :
20.0 A
サブラジエターファン :
7.5 A
フューエルインジェクション :
15.0 A
ABS モーター :
30.0 A
ABS ソレノイド :
15.0 A
ABS コントロールユニット :
7.5 A
バックアップ :
7.5 A
電子制御スロットルバルブ :
7.5 A

JAU36641

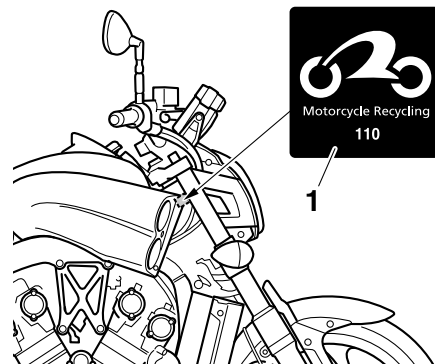
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？
廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？
（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？
廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い
この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。

1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて
廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。
（財）自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号　０３－３５９８－８０７５
受付時間　９時３０分～１７時００分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

JAU28372

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

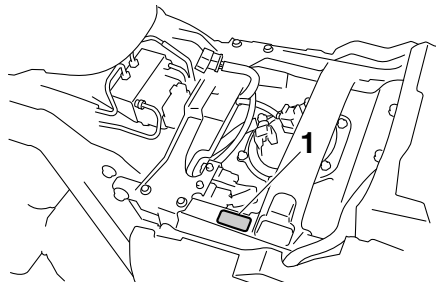
VMAX　サービスマニュアル　部品番号：
基本版：
QQS-CLT-000-2S3
追補版：
QQS-CLT-010-2S3

※ 追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

JAU28452

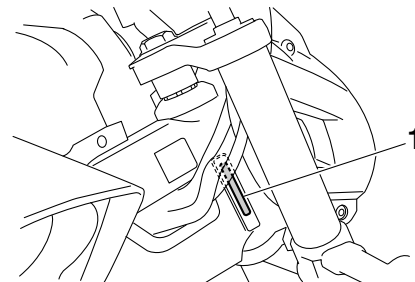
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、ライダーシート下に貼り付けてあります。

1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
VMAX
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

索引

10

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-103-2S3

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2013.08-0.3×1 CR
(J)